



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



5

2008, MAY

第1763回例会

平成20年5月15日



2008年5月

ローターアクト地区大会

会 長	茨木 雅敏	広報委員長	奥 敏則
副 会 長	近藤 誠勝	広報副委員長	小甲 哲士
副 会 長	千葉 清孝	委 員	渡部 省一
幹 事	三野宮 功	委 員	久保 且佳
会 計	大沢 剛	委 員	田中 利昭
S A A	本田美喜男	委 員	北川 勝啓



会長報告

会長 茨木 雅敏



こんにちは。本日は、杉浦ガバナー補佐の最終のクラブ公式訪問になっております。まだ一ヶ月程の任期を残しておりますが、一年間本当にご苦労さまでした。お礼を申し上げます。

13日の勝毎の紙面で紹介されましたが、社会奉仕委員会の活動予定でありました高齢者の方の義歯への名前入れが、5月9日光南病院で実施されました。齊藤憲生会員・佐々木嘉晃会員・川上まり子会員の3名の当クラブの歯科医の先生のご協力によりまして、2時間程で8名の方の義歯にネームを入れました。

改めてお礼を申し上げます。もう一つの事業であります、保育所のグランドへの植樹は、今月の27日午前10時から、ひばり保育所で行います。時間の許す会員の方は参加いただきたいと思ひます。

当クラブの委員会構成の変更に伴った、クラブ細則の変更を今年度中に行いたいと思ひます。近い内に会員の皆様へ、変更箇所を明記した原稿と、臨時総会のご案内をお送りいたします。臨時総会は6月になりますが、宜しくお願ひいたします。本日は、プログラムが混んでおりますので、以上で会長報告を終わらせていただきます。

たいまつ宣言

この「たいまつ宣言」は創立30周年にあたり、西ロータリークラブの創立の心を知るところから発し、我々が未来へ向けての道標とするものである。たいまつのように我々の行く道を照らし、明るい未来へと導くものである。

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に変革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を實踐する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

出席状況報告

月/日	4/10	4/17	4/24	5/8
例 会	1759回	1760回	1761回	1762回
総会員数	72名	72名	72名	72名
計算に用いる 出席数	65名	65名	65名	65名
ホームクラブ出席	45名	42名	45名	49名
メークアップ参加	18名	19名	18名	14名
欠 席 者	2名	4名	2名	2名
出 席 率	96.92%	93.84%	96.92%	96.92%

ニコニコ献金

5月15日 19,000円 累計 476,000円

今月の主な行事

- 5月 1日 休会(GW)
- 8日 誕生・結婚祝
- 15日
- 22日
- 29日 夜間例会 次年度委員会別運営会議



点鐘
開会宣言
ロータリーソング (奉仕の理想)
ゲスト紹介

茨木雅敏会長
本田美喜男 SAA

茨木雅敏会長
国際ロータリー第2500地区第6分区分会ガバナー補佐
杉浦 壽様

(会食)
会長報告
会務報告

茨木雅敏会長
三野宮 功幹事

- ①帯広北RC、移動例会開催のご案内
日時 平成20年5月16日(金)午後0時
場所 JICA
- ②帯広北RC、移動例会開催のご案内
日時 平成20年5月25日(日)午前9時～
場所 北海道立十勝エコロジーパーク
※尚、5月23日(金)の繰り下げ例会と致します。
- ③帯広西RC、夜間例会開催のご案内
・次年度委員会打ち合わせ・・・
日時 平成20年5月29日(木)午後6時30分
場所 北海道ホテル

ニコニコ献金 親睦活動委員会 太田 豊委員
内海仁司会員 誕生祝結婚祝ありがとうございました。
酒井忠之会員 久々の昼間出席です。
山田倫一郎会員 入れ歯の名前入れ、斉藤会員・川上会員・佐々木会員の三先生と光南病院のご協力により、無事終了いたしました。

越智孝佳会員 4月9日に次年度のクラブ協議会を行いました。新しい年度に向けて準備をしております。会員の皆様のご協力よろしくお願ひいたします。



出席報告

出席委員会 杉田吉弘委員

ご挨拶 国際ロータリー第2500地区第6分区分会ガバナー補佐
杉浦 壽様

皆さんこんにちは。4度目の訪問をさせていただきます。まず、3月5日のIMには西ロータリークラブの皆さんの多数の出席を頂き誠にありがとうございました。反省点はいろいろとありますが、カバナーを一度輩出してから、いろいろとごたごたがあり、地区大会・地区協議会などをしてまいりましたが、IMも含め、大きな事業を成し遂げると、クラブ組織もだんだん締まってくるのを感じました。またいろいろとクラブを回って感じたことは、会員増強には皆さん苦勞されているようです。増やすことも大事ですが、今いる会員に如何にクラブに留まっていたか、つまり魅力作り・人間関係の絆などが一番の基本だと思っています。

また、海田カバナーは自然環境の事に力を入れてこれませんが、1年を振り返り、してやったりと思っているのではないのでしょうか。自然破壊が続く中国の事を桜井良子の本の中で読みましたが、河川の90パーセントが汚染され、70パーセントの人々がその水を飲んでるのだそうです。沿岸線も河川周辺ではヘドロが蓄積し、かつての日本のように大変なパニックになっていくのではと思っています。

そして、2007年から2013年にかけて、1つの試験的なプロジェクトが進んでいます。例会を月に4回または2回ということです。どうも4回の例会はきついと言っていることを良く聞きます。郡部では月2回の例会しかないライオンズクラブにみんな引張られてしまうと聞きます。4回から2回になったとしても、決して出席率が増えるとは思いませんが、会費が安くなるなどのメリットは出てくるでしょう。厳しいクラブ運営・個人的にも厳しい状況ですから、ロータリーも少し考えなければならぬ時代になったのだと思います。しかし、西ロータリーさんの場合は、充実したクラブ運営や事業を盛んに行っていると思います。ですから、これからカバナーを出せるのだと思います。ぜひともなおさら弾みをつけていただき、クラブ運営をしていただければと思います。最後にPRをさせていただきますと、北ロータリーは、来年2月11日に、50周年の式典を行います。北クラブの伝統と重さを認識し、結束すると言う意味でもすばらしい式典を行いたいと思っていますので、西ロータリーの皆様にも出席していただければと思います。1年間どうもありがとうございました。

プログラム

国際奉仕委員会 山本範之委員長

こんにちは。西クラブが他のクラブに誇れるものひとつとして、国際青少年



交換事業があります。約30年前から、現在まで9名行われ、受け入れをしたのは、今年のペロニカを入れ、3名になりました。高校生の国際青少年交換のプログラムが出来ているのは、国際奉仕の実践をしているからだと思ひます。今日は、地区の青少年交換委員長をしております三野宮幹事にお話を伺いたいと思ひます。

第2500地区青少年交換委員長

三野宮 功 会長

【青少年交換事業】

皆さん改めましてこんにちは。青少年交換事業と言うとなかなか判らないと思ひます。先日にも釧路北RCや芽室RCで説明をしてきました。こう言う機会を作って皆様方にお知らせしたいと思ひておりましたが、今日こう言う形で、お知らせできると言うことは、山本委員長からも話があったように、帯広西RCもいろいろとこの事業では貢献されてきたからだと思います。エンブレムのマークなど皆さんは見たことがないと思ひますが、世界共通で、8月から世界各地の目的地に向かって、このマークをつけた生徒が発ちます。ロゴマークを見て、お互い交換学生だと話が盛り上がり、自分は1人ではないとほっとすることもあるようです。青少年交換事業は、15歳から19歳までの大学生を除く主に高校生の事業です。ロータリー財団は、一切関わり合いがなく、私が8年暮らしていた第2の故郷であるコペンハーゲンRCが、1929年に最初に行いました。世界約80カ国から7000人が参加します。交換事業には短期交換事業と長期交換事業があり、短期はたまたま今年度モルドバ共和国から来たペロニカの例がありますが、2週間から1ヶ月程度の滞在期間となります。彼女は、地区大会に参加し、東京・京都で研修をしてきました。帯広に居る間も、白樺高校が好意的に授業などに参加させてくれました。モルドバ共和国へ行った話は以前にもしましたが、3泊の間に4校ほど訪問させていただきました。日本語を話す生徒がいりたりしてびっくりしましたが、日本のことは良く知っています。後でたまたま知ったことですが、この写真の中に今回来ましたペロニカが写っています。私の話を聴いて、きっと日本へ行きたいと興味を持ってくれたのではないかとと思ひますが、帰ってからでも、ペロニカはロータリーのことや日本のことについてマスコミに出て話をしてきて、交換事業に来ていただいた成果としては充分だったと思ひています。長期交換事業は、アメリカの学期に合わせて、8月から翌年の6・7月までの約1年で、ホームステイ先から学校へ通学します。ホームステイ先はロータリアンがほとんどです。ただ留学するだけでは駄目で、クラブ例会の出席や地区大会への出席が義務付けられています。また、他に見ない厳しい規則があって飲酒・運転・薬・男女交際などが禁止され、規則を破った場合は弁明の余地もなく帰国させられます。ホームステイでは家族の一員として可愛がられることが大事で、家事の手伝いをしたり、いろいろなところへ連れて行ってもらったりしているようです。留学先では学校へ通学するわけですが、現地へ行けば多少語学力があると思ひていても、自分が如何に語学力が無いかということを知らされます。ELSのコースへ入って、言語を学びますが、大体3ヶ月もすれば言葉もわかるようになります。また、ただ勉強するだけでは駄目で、部活に入ることも進めています。この写真に写っている富良野出身の白沢さんは、テニス部に入り、1年向こうにいただけで驚異的に語学力が伸びてきました。最後に委員会の説明をすると、前年度の11月ぐらいから準備が始まり、2・3月ぐらいから交換留学のための申請書を出したりもらったりしなければなりません。年度が替わり8月になると、世界各地から成田へ大勢来ます。右も左もわからない生徒が来るわけですから、迎えに行きます。3日間ぐらいは仕事を休まなければなりません。受け入れ後は、帯広のJICAの研修施設で9月にオリエンテーションがあります。帰国学生に報告もしてもらいます。10月は地区大会の参加があり、2月にはフォーラムや分科会がある札幌国際ナショナルナイトがあります。今年度は三笠宮親王殿下が出席されました。2500地区の実績としては現在まで、72名を派遣し72名を受け入れてしています。多くは、北米・アジアです。次年度は、北米2名、ドイツ1名、インドネシア1名の受け入れをし、同数派遣もする予定であります。目的として、留学を通じさまざまな人生経験を積んでもらいたいとか、国際理解、ホストファミリー・ホストクラブ・学校・地域での友情を築いてほしいということがありますが、何よりも人間形成のため、帰国してからのリーダー的な役割を果たしてほしいと期待しています。ありがとうございました。

閉会宣言
点鐘

本田美喜男 SAA
茨木雅敏会長

